

「長谷のストーン・ショップ(3)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

長谷のストーン・ショップは、店構えこそ素朴だが、内容が非常に素晴らしい。お店の人(女性)に聞いたら、姉妹の旦那さんが化石や鉱物の収集家で、独自の入手ルートを持っているらしい。時々3時間も4時間もお店で石を見ていく人もいるという。気持ちはわかるような気がする。



アンモナイトのような中生代の化石だけでなく、古生代の化石もたくさん扱っている。一般的に博物館の売店で売っているような三葉虫は、写真右上のケースに入っているような「エルラシア」という種類で、せいぜい五百円玉程度の大きさしかない。しかしここにあるのは特大サイズの三葉虫で、値段も数千円と、ちょっと目を疑うような価格設定だ。今度の週末に買いに行きたいと思っている。



こちらも素晴らしい。恐らく中国産の三葉虫群化石で、俗に「蝙蝠石」と呼ばれている。百万円ぐらいの

値がつきそうな母岩付きの化石だが、6万円と破格だ。



最も心を惹かれたのが、この「アンモライト」という美しい化石だ。私はカナダのジャスパーの自然史博物館の売店で、この化石を見て目が釘付けになった。値段は5千ドル(当時のレートで約80万円)だった。品位もちがうだろうが、同じぐらいの大きさで価格は十分の一だ。これも手に入りたい。



水晶も豊富だ。これらは自然の結晶型ではなく、人工的に研磨したもので、推奨できない水晶だ。



ほかにもさまざまな鉱物の標本を扱っている。予算が無限なら、思い切ってお店丸ごと買ってしまいたい内容である。